

見てまわる。驚いたことに慶長の年号の入った墓石があり、元禄期以前のものが数基ある。それと立派な御影石や砂岩の石門である。

福泉寺の山門下には魚鱗塔があり、本堂前には昨年秋の魚鱗供養の塔婆が高く建てられている。魚鱗に対する感謝供養のことが、昔も今もかわりなく守られていることに私は感動を覚えた。

清水庵にもまわった。参道は落椿、天空より落ちる龍のしぶき、そしてかぎり老朽の安ん庵の庄産庫裡、境内近くに乱雑に散乱する古塔（明後十二日には大奉じて整備する由）、畑野浦の御土史、御土文化に対する追求の場はここであると思つた。

時刻は下つたが楠本浦まで車とはせ、庵に上つた。一本の樟が彫り上げたという三十三体の仏像（西面三十三番の弁尊仏）が、硝子戸の中はズラリと並んでいる。まことに壯観である。福泉寺で先年見たこの楠本で掘り出したという樟の巨木の根、この三十三体の樟の一本が彫った仏像、そして楠本という地名。これこそ所討すべき御土史である。

暮れなすむ寺背に繖の花ありて

三月に入つて、五日の日曜は同志六人で湯岳に登つたが、その詳細は略する。七日の夕方私は一人で宇山城址に登り、まっ直ぐに佐土原に通する道をさぐつた。それは明後日、市民歩こう会が堅田の史跡をめぐると案内役と引受けての予備調査である。今日（十日）は市の文化財パトロールで、黒沢、谷川、市福所、府坂、石打と車でまわつた。移動には車かよいが現地ではやはり歩くに限る。幸い春はまだ浅いので野でも山でも歩くに一番よい時である。

宇藤水から天向谷を自転車で巡らうと、保瀬、水たけ、照に登らうとが話が多い。三月下旬から四月にかけて史談会の行事として実施したいものである。三輪ほどまんざくの花咲きにけり。（おわり）

書籍

宮崎県北川村瀬口 徳藤清助氏より 瀬口御頭様の例祭の使ひ （三月三日付）

春とは名の及毎日寒う御座います。益々御清健の御事とおよろこび申します。毎度佐伯史談会、御志願頂き有難く御礼申します。

初て御頭様もその後日々参詣者相續き、古老人クラブとして有難いことと存じております。つきましては昨年一応決めました例祭の七月廿五日が盛夏の折とて、老人クラブ主催としては何かと困難な点もあり、村長中井さんの御意見なども頂き、歳前三河内長高知さんの例祭旧正月十五日に變更し、去る二月廿九日（旧正月十五日）盛大に行いました。何卒御了承御願ひ申します。

当日は北川村長、休石さん、部長会長、民生委員、駐在史談会を招き、吉祥寺住職の親縁で盛大に終始しました。およろこび下さい。休石さん、徳藤清直川村休石翁、日お侍申しました。御都合でお出でいただけませんでした。何卒史談会開催の節は右の旨御伝えいたたくと共に、御参詣下さいますよう、お待ち申します。

書き落しました。読者の後、赤白の餅を保育園児童に一振にまき、一層のにぎわいでした。（後略）

（附記）この瀬口のお頭さまは尾高知の峯に懐死した。佐伯惟忠の頭を埋葬したところ、今もかわりなく祭られていることに奇蹟なことに感じ入ります。（編者）